

兵庫県保険医協会尼崎支部 第79回医療と福祉を考える会

認知症の基礎知識

—アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型—

本邦の認知症患者は現在200万人を超えると推定されており、10年後には300万人に達すると言われています。認知症は高齢者に多く見られる疾患で、65歳以上では7～8%、85歳以上では4人に1人が認知症であると考えられています。まさに認知症は、common diseaseです。

認知症は、「正常に達した知的機能が後天的な器質性障害によって低下して、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態」です。認知症の診断には、高次脳機能検査や画像検査なども重要ですが、それ以前に個々の症例における日常生活場面での変調について情報を得て評価することが必要です。

「後天的な器質性障害」には種々の疾患が含まれます。慢性進行性の神経細胞の脱落・消失をきたす変性型認知症が全体の70～80%を占めますが、一部には治療可能な認知症(treatable dementia)があることも留意すべきです。今回は、変性型認知症の代表的な三つの疾患について、簡単に解説します。(土山記)

「医療と福祉を考える会」は医療、看護、介護に関わる方々に職種を超えてお集まりいただき、ざっくばらんに話しあい、学習する場として開催しています。お気軽にご参加ください。

(担当・わたや整形外科 綿谷 茂樹)

日時 2月24日(木) 18時30分～20時30分

会場 アルカイクホール・ミニ

TEL: 06-6487-0800 (阪神尼崎駅より徒歩5分)

講師 西宮市・つちやま内科クリニック 土山 雅人 先生

参加費 無料

お申込は、協会事務局 長澤・荒川・駒ヶ嶺

共催 株式会社エーザイ

TEL078-393-1803 まで

第444回幹事会だより

12月17日(金) 於 潮江・「みなと」 参加: 8人

○ 尼崎支部の会員数と組織率

12/16現在 医科384人(83.4%)、歯科136人(52.9%)

○ 医療をめぐる情勢と運動対策

尼崎市長選挙の結果と稲村市政の課題、県立病院の統合再編問題、受診抑制実態調査、沖縄普天間基地移設問題等について意見交換した。

○ 当面の支部活動

1月26日(水)13:30～金楽寺住宅健康教室、2月24日(木)18:30～アルカイクホールにて第79回医療と福祉を考える会を開催予定。

○ 次回の幹事会

1月14日(金)20時から立花・「味良久」で開催予定。

お問い合わせはTEL 078-393-1803 長澤まで

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

318号

2011年1月5日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

- 新年のご挨拶 -

社会保障充実めざして協会活動に取り組もう

尼崎支部長 八木 秀満

新春のお喜びを申し上げます。

昨年、「あまり大したことがなかった鳩山政権」は、あっさり投げ出され、管政権となりました。少しは期待していたのですが、人材が乏しいためか、前には進んでいません。この政局の混乱に乗じてかどうか、役人は、いろいろと仕掛けてきました。

後期高齢者医療制度は、一見、元に戻すかのような案が出されただけで、今も存続しています。協会のアンケート調査を見ても、介護保険に限らず、医療保険でも一部負担金が払えないために受診を控える患者さんが増えています。どの様な保険のシステムであっても使えなければ意味がありません。特に、医療保険は、社会保障の一部ですから。

また、昨年暮れに、保団連が「IT戦略本部専門調査会検討項目の『診療報酬請求及びカルテの完全電子化』はそもそも『調査・検討』すべきでない」という談話を発表しました。中で、厚生労働省の意見として、「レセプトオンライン請求の緩和措置は、中略・・・医療現場の混乱や地域医療の崩壊が起こることを・・・中略・・・レセプトの完全電子化の実施は困難である」と回答しています。我々の「オンライン訴訟」が功を奏していると思います。

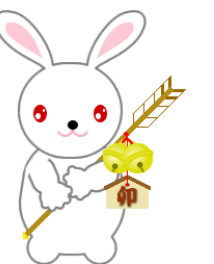
皆様、本年も、何が起こるかわかりません。社会保障の充実を実現するために、協会活動をすすめていきましょう。



謹賀新年

今年もよろしくお願ひ致します

幹事一同



病院勤務医・研修医向けの保険請求研修会

保険請求のしくみわかりやすく



「普段学ぶ機会がない」と参加者に好評

尼崎支部は12月16日、合志病院内で勤務医・研修医を対象とした保険請求研修会を開催し、15人が参加した。講師は綿谷茂樹副支部長が務めた。

協会では、会員・事務スタッフを対象にした保険診療および保険請求のしくみについて学ぶ機会を定期的に設けており、好評を得ているが、勤務医・研修医向けの研修会は前回の県立塚口病院につづき今回で2回目。

研修では、保険診療と自由診療のちがい、保険者と保険医療機関、被保険者との関係、現物給付

と現金給付、保険診療のルール、一部負担金の徴収といった実務、カルテや処方箋の書き方と注意点など、綿谷先生が豊富な事例を交えながらわかりやすく解説した。

支部では今後も各地の病院に、勤務医・研修医向けの研修会の開催を呼びかけていく予定。

医療と福祉を考える会

多職種連携で「床ずれ」早期治療を

尼崎支部は12月2日、中小企業センターで第78回医療と福祉を考える会を開催し、「在宅でのとずれゼロ化計画—多職種連携を生かして—」と題して、皮膚科美川医院の増田理恵先生が講演。綿谷茂樹副支部長が司会を担当し、医師や看護師、介護職など47人が参加した。

増田先生は、在宅では「深い」「治療が遅れている」褥瘡が多いことを紹介し、早期発見のためには主治医や訪問看護師、ケアマネ、ヘルパー、その他多くの職種の連携が重要であると呼びかけた。

褥瘡発生の要因としては、同部位への継続的な圧迫のほか、皮膚組織のズレが及ぼす影響を強調。圧とずれ力、骨の突出が複合することによって、重度の壊死組織が形成される過程を解説した。

また、褥瘡が発生しやすい部位、「圧抜き」やクッションの活用などの除圧とずれ予防の方法、いくつかの皮膚欠損用ドレッシング剤の特徴やラップ療法についても言及したほか、緊急性の高い皮膚の変化や見落してはいけない症状を画像を用いて例示し、「皮膚をよく観察して変化を早く見つけ出すことが大事」「患者によってケースは様々。褥瘡の治療はやればやるほど難しい」と日常診療の経験を語った。

質疑では、介護職などから「石鹸の適切な使用法は」「主治医との連携を円滑に行う秘訣は」といった疑問が出されるなど意見交換が行われた。

市長選挙結果について

尼崎支部長 八木秀満

11月21日の尼崎市長選挙の結果、白井市政の継承を掲げた稲村新市長が誕生した。

尼崎支部は、幹事団体として加盟する民主市政の会(民主市政をつくる会)が政策協定を結んだ前尼崎民主商工会事務局長の徳田稔氏を推薦、17,053票(得票率15.7%)を獲得、善戦したが、当選には及ばなかった。

徳田氏は、国保制度の改善、後期高齢者医療制度の廃止、県立塚口病院の存続など、社会保障分野の運動に取り組んできた実績を押し出して、『憲法を暮らしに生かし住民のみなさんが主人公となるまちづくり』を目指したが、短期間で政策を周知させることができなかった。

支部では、引き続き、医療や福祉を充実させる市政の実現を求めて、民主市政の会とともに新市政に働きかけていきたい。支部会員におかれては、今後ともご理解・ご協力を賜りたい。

尼崎アスベスト訴訟

アスベストの危険性「知らなかった」ではすまされない 一国の加害責任も追及

旧クボタ神崎工場周辺で環境曝露によるアスベスト被害で中皮腫を発症し死亡し、クボタと国に謝罪と損害賠償を訴えている山内康民さんらの19回目の裁判の口答弁論が12月8日に行われ、80人が傍聴した。

また、クボタの下請け会社でアスベストの運搬作業に従事し、アスベストによる死亡が判明した山本美智子さんらの労災型裁判が12月20日に6回目の口答弁論が行われ、40人が傍聴した。

原告弁護団は、アスベストの危険性の知見—予見可能性について「(60年代)当時、責任を基礎づける知見は確立していなかった」とするクボタに反論。

塵肺については戦前、50年代には石綿と肺がんの危険性がすでに指摘されていたアスベストを古くから大量に使用していたクボタは研究、技術、知識等の集積著しい先端企業であり、未曾有の公害を引き起こした危険性を知らなかったではすまされない。一方、労働者や周辺住民の側の立証については、具体的な危険性を知ることができず、石綿粉塵の一般的な危険性で足りるとし、水俣、四日市、スモン、最近のアスベスト裁判でもすでに結論づけられているとした。

また、50年代から鑄鉄管に比べ割安な石綿の経済性に着目した国が産業政策として簡易水道普及へ石綿管をJIS規格化し、国庫補助、地方債、交付税等で行政指導、財政支援をクボタに集中、推進した歴史的事実を指摘し、被告国の調査研究義務、責任はまぬがれないと追及した。

環境型裁判は3月1日、労災型裁判は3月4日、行政訴訟は2月17日に松本博さんの本人尋問が予定されている。